



ぶどうのささやき

4号

2009年
4月15日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

神奈川県経済対策の推進について

神奈川県商工労働部長 小林 賢

昨年秋のリーマンショックに端を発した、世界的な金融危機は、県民生活や中小企業の経営に深刻な影響を及ぼしています。県では、こうした厳しい経済状況に対応するため、昨年来「中小企業支援対策」や「雇用対策」の充実に努めてまいりました。

このほど、総額2兆6千億円に及ぶ平成21年度当初予算を編成しましたので、この中から、商工労働部関係予算の概要をご紹介しますとともに、本年4月1日に施行した「神奈川県中小企業活性化推進条例」の概要についてご紹介します。

神奈川の力を結集し「安心と活力の神奈川」を実現するため、地域経済を下支えする経済対策、雇用対策など喫緊の課題に全力で取り組むことを目指して、平成21年度予算編成を行いました。商工労働部関係予算は、総額約392億円、前年度比で126.8%と増加しております。

主な中小企業支援対策についてご紹介します。

資金繰りなど中小企業の経営面の支援として、中小企業制度融資の制度内容を見直し、緊急融資の実施や融資利率の引き下げ、融資条件の緩和など、より利用しやすい制度に改善しています。このほか、商店街等の活性化支援、「観光立県かながわ」を目指した取組等を盛り込んだ予算としています。

また、中長期的に中小企業振興を進めるため「神奈川県中小企業活性化推進条例」を昨年10月に制定し、

本年4月から施行しました。

条例の特色は次の5点です。

- ①かながわの優位性を生かして、行政、企業、団体、大学、県民が連携、協働して中小企業振興を促進する。
- ②中小企業が地域とともに発展していくことができるよう、中小企業の社会貢献等の取組を推進する。
- ③経営規模を勘案して中小企業振興施策を推進する。
- ④中小企業振興施策を検証するPDCAサイクルを構築する。
- ⑤毎年2月を中小企業活性化推進月間として、中小企業支援を集中的に展開する。

現在、県では、こうした考え方をもとにして、中小企業振興施策の総合的な推進を図るため「中小企業活性化推進計画」の策定を進めています。県内事業所数の約99%を占める中小企業は地域経済の主役です。

今後も、中小企業が生き生きと活躍できる神奈川の実現をめざして、中小企業振興に取り組んでまいります。

産業クラスター研究会の皆様におかれましても、地域経済の活性化に向け、中小企業振興にご尽力賜ることを期待しております。



【歳時記】

梅桜桃李・やわらかであとさきのけじめのないこの季節に、列車が甲斐大和を過ぎると最初のトキメキが始まる。左側の車窓に息を殺してトンネルを抜けるのを待つとお目当ての南アルプスの冠雪が飛び込んで来る。甲府盆地より標高があるため、アルプスの展望台としてより多くの連山が望める穴場である。全神経を集めたほんの一分間でおき入りの時はあつという間に過ぎる。

列車は勝沼ぶどう郷から初めて開けた甲府盆地・南アルプス・秩父連山をも見渡して下ったあと、塩山を過ぎ春日居町、石和温泉に近づくにつれてのトキメキは桃花の乱舞。車窓の両側にまじかに迫るピンクや、すももの白い花々は鈍行列車のスピードを越える景観で、ただただ溜息を付つくばかり。桃は種を取除いた空洞に命が宿ると信じられ、邪をはらう霊力を持つとも言われて来た。私の桃好みは花といえば「桜」が定説の日本人へのさやかなアンチテーゼでもあろうか。

駅よりしばらくの小高い丘がトキメキのフイナールで、遠くに望む白いアルプスの雄姿をバックに斜めの絨毯を敷いたように悠然と広がるゆるやかな盆地の扇状地に咲く桃花はまぎれもなく桃源郷であり、筆舌につくしがたい。ゆつくり腰を下ろし根元に咲き添う紅紫の「ほとけの座」やほんのり感じる土の匂いに我を忘れる。

南北に長いこの国で「山笑う」候は、秋を除いた三つの季節がどこかで楽しめ、日本人である事を年に似合わず幸せに感じるときである。(孝十)

野に出れば人みなやさし桃花

高野素十

平成 21 年度事業計画に対する私の提案

理事長 古川 弘康

わが国の経済は、昨年10月～12月期に年率12.7%のマイナス成長に陥ったといわれています。これは世界経済の悪化による輸出の落ち込みに加え、設備投資・個人消費も減少し、負の連鎖が国内に及んできたことを示しています。しかし、未だに世界経済に底打ち感が見えてこないことを考えれば、わが国の経済は当分低迷すると見なければなりません。このような状況は地域経済にも及んできているため、当研究会としては地域経済の実状把握に努め、その結果に基づいて経済活性化に繋がる活動を平成21年度事業計画に盛り込むことにしています。

この会報誌4号は総会前の発行となるので、まずは平成21年度の実業計画私案を掲載します。ご意見ご要望をお寄せください。総会にて検討させて頂き、本年度の活動に反映させて行きたいと思えます。

1. 運営関係

1) 活動地域の拡大

顧客からの要求が益ます難しくなっている中小製造業の対応策として、新たに他企業との協力関係の必要が生じています。そこで当研究会は活動地域を今までの横浜や横須賀の近隣地域にも拡大して企業間の協力関係構築の支援を効率的に行えるように考えています。

2) 支援企業の拡大

今まで支援対象は法人会員企業に限定していましたが、上記に関連して今後は会員外の一般企業にも支援を拡大することに致します。

3) 個人会員の増強

活動地域や支援企業の拡大に伴って活動を担う個人会員を増強しなければなりません。しかし、今までの口コミによる募集方法では成果が期待できないので、新たな方策を検討することに致します。

4) 他団体との関係強化

当研究会と類似の活動を行っている団体、ことにNPOとは協力関係を深めて、相乗効果が期待できる事業運営を図ることに致します。

5) 法人会員の参画機会の向上

法人会員は企業経営者でもあるため当研究会の各種会議への出席が難しく、結果として意見が運営に十分

反映されていません。そこで法人会員優先の運営委員会に改善し、個人会員との一層の連携を図ります。

6) 経費の節減

現在の財務状況において経費が大きな負担となっています。そこで経費節減のため21年度からYRP事務所の借り換えと駐車場の解約を行います。

7) 補助金事業への積極的な応募

地域経済活性化への活動については、国・県・政令市で補助金制度を設けていますので、積極的に応募して関係機関との交流を拓く契機にしたいと思います。

8) 業務委託の受諾

行政及び関係機関に当研究会の中小企業支援活動が知られるようになってきたので、今後はこれらの関係機関からの業務委託を受けてより一層充実した活動を目指します。

2. 事業関係

1) 従来からの継続支援事業

- ①中小企業の支援
- ②海外関連業務支援
- ③ホームページの作成・維持管理支援
- ④住宅リフォーム目付け役事業

2) 産学連携 コーディネーション

当研究会が支援対象としている中小企業及び中小製造業が取り組むさまざまな課題について、研究的なウエイトの高い課題については、大学の産学連携プロジェクトへ繋ぐ役割を担います。また、実務的な課題については 神奈川県産業技術センターへ繋ぐように致します。

3) 横浜関係事業

平成19年度から横浜市との3カ年の協働事業として「京浜工業地帯と地方の中小製造業の補完関係構築支援事業」を始めました。加えて最近では「中小製造業の仕事の確保」を重点課題として活動しています。最終年度にあたる本年も引き続きこれらの課題に取り組みさらなる成果へつなげて行きたいと思えます。

部会活動紹介

★★★横浜事業部会★★★

当研究会と横浜市との協働事業「京浜工業地帯と地方の中小製造業の補完関係構築支援事業」を始め、それから1年余りが経過しました。この間、会員の皆さまからは多数の事業課題をいただき一緒に解決にありました。先月、その活動の報告を兼ねて横浜市経済観光局経済企画課による「横浜市中小企業支援策」の紹介と情報交換会を実施いたしました。このような経済情勢の中、さまざまな情報を交換し合い、会員の皆さまのお役に立つことがあったのではないかと考えています。未曾有の経済危機の中、中小製造業の皆さまは生き残りをかけて、日夜、大変ご苦労をされております。横浜と地方の中小製造業を結ぶこの事業が益々必要になっていると実感しています。

今年度は取引機会の場の提供や企業交流会を計画し、更なる活動の深耕に務めていきます。

★★★住宅リフォーム事業部会★★★

住宅リフォーム部会は、個人が住宅リフォームに踏み切る際に、施主に代わって不正が行われないように監理を担当する業務（目付け役業務）を統括管理しています。この目付け役業務は一人暮らしの在宅高齢者が増えていく中で、ますます必要と思われるので、当研究会としては、地域を拡大して推進形態を見直します。

★★★企業支援事業部会★★★

最近の支援活動成果として、法人会員A社のISO 9001 認証取得があります。昨年後半より週一回、社員数名を対象に基礎から教育を実施し、本年3月に認証を取得しました。さらに、ISO 27001 の認証取得に向け支援活動を継続しています。また、法人会員B社の依頼で新規協力会社の候補の調査を行い、インターネット検索や人脈を活用して関西方面の協力会社を探し出しました。現在、B社の主要な機械部品の発注が開始されています。



★★★海外関連事業部会★★★

当部会の翻訳関係は400字詰め原稿用紙換算で年間約350枚。内容は技術文書・図面・取扱い説明書等の翻訳が約80%でした。それ以外にもホームページ、CAD図面、請求書・見積書、ビジネスメール、Fax、会議用（プレゼンテーション用を含む）資料、Web会社案内等を含め日常業務の連絡文書類の24時間内翻訳等も実施しました。

*原稿の種類・内容によらずどんな細かい案件でも対応可能ですので是非皆様の活用をお待ちしています。

◆◆◆事務局からのお知らせ◆◆◆

◎平成21年度定期総会のお知らせ

日時＝5月28日（木）午後4：00～6：00 場所＝横須賀産業交流プラザ第1研修室
その後、懇親会＝6：00～8：00 サロン室

◎YRP事務所が、218号から同階209号に部屋替えしました。少し手狭になりますが、経費節減のためです。同じ階ですから、今までと同様お気軽にお越し下さい。

◎編集から訂正とお詫び

前号までの奥付、横須賀YRP事務所の字名の標記に誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。正しくは『**光の丘**』です。「光が丘は誤り」

法人会員紹介

株式会社 芝技研

少数精鋭で小さな巨人に!

昭和55年7月、現社長の福島 洋一がガラスなどの硬脆材料を加工する機械装置の開発販売会社を立ち上げました。しかし創業当初、事業は順調とはいえ、開発費が大きな負担となって、倒産寸前の危機にも陥りました。昭和64年、大手メーカーからシリコン部材の加工を請け負うことができ、それまでに蓄積してきた技術を生かして「反力検知システム」を開発し、小径孔加工を可能として経営的に大きな転機を迎えることができました。「反力検知システム」とは加工中の工具の反力を読むことで、事故発生前に機械が工具の劣化等の不具合を判断し、新工具に自動交換するシステムです。硬脆材料の精密加工において、ダイヤモンドの切れ味の劣化や目詰りが被加工物にしばしば決定的なダメージをもたらします。このため従来の方法では、ツールの本来の寿命時間よりも短い時間に設定したり、目詰り防止のため、頻繁に目立て作業を行って不良品の発生を防ぐ対策をとるなど、作業者は機械に付きっ切りになっていました。特に素材が高価なもの、加工工程が長く加工に長時間を必要とするものについては、こうした対応が頻繁に行われるため、加工能率の低下が避けられませんでした。当該技術の完成によりダイヤモンドの本来持つ能力を最大限に生かし、加工速度が向上し、連続自動運転を実現できました。

この「反力検知システム」は平成14年12月に神奈川県中小企業センターより、ビジネス可能性「A評価」を受けました。これを機に神奈川県や横須賀市等公的な機関からの助成を受けることが可能となり、その後の会社運営に大きな自信を得ることができました。

〒239-0832

横須賀市神明町1-52 ☎046-838-5620 FAX046-838-5622

URL <http://www.shibagiken.co.jp/japanese/index.html>

代表取締役社長 福島 洋一



久里浜テクノパーク工場

平成17年1月には横須賀工場が「神奈川県中小企業優良工場」として表彰されました。そして今日の「久里浜テクノパーク工場」は横須賀市経済部産業政策課から「久里浜テクノパーク」進出のお誘いをいただき、神奈川県の「インベスト神奈川」という制度の利用も受けることが出来て、平成18年6月に「久里浜テクノパーク工場」が増設できました。

当社の特色は需要が増大するガラス・シリコン等の加工装置と受託加工に特化しています。加工装置開発販売においては、加工技術の蓄積を活用して効率の良い装置開発を行っています。受託加工においては、機械技術を生かし、自社製装の置開発により、高品質、低コストで対応が可能となっています。小規模であっても、ある限定された分野で他共に認める競争力と主導権を確立している中小企業のみが生き残れるものと確信しています。「少数精鋭で小さな巨人になる」を会社の社是に掲げて日々努力しています。

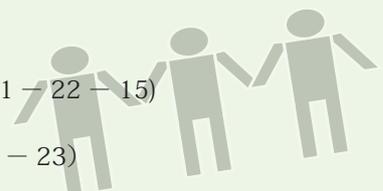
◆◆◆◆ 新会員紹介 ◆◆◆◆

【法人会員】

- ✳️ 有限会社 横須賀設備工業所 代表取締役 生松 努 (横須賀市鴨居1-22-15)
- ✳️ 株式会社 鶴若防災 鶴若 行夫 (横須賀市岩戸4-22-8)
- ✳️ ANA テック株式会社 代表取締役 安藤 準一 (横須賀市内川1-7-23)

【個人会員】

- ✳️ 武藤 武男 (キャノンM・J株式会社OB)



◆クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーター氏が著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。



副理事長 浜田 徹 さん

先見性にとみ社会貢献の志にもえる

いつも背筋をピンと張って一キロ先をも見通しているかのように歩いています。それもその筈ガラス会社の社長です。見通すじちはお家芸？でした。モットーは「信念と誠心誠意」だとおっしゃるだけあって真面目が街にあるいているような方です。

横須賀で最初の自動車ガラス専門会社「湘南安全ガラス」を設立したのが37年前。その後、趣味のヨットを生かしてヨットの生産会社、さらに沖縄観光船の建造から、サイパン島観光事業等を手掛けられ、北マリアナ諸島連邦政府から“親善大使”の称号を授与されました。

創業者が経験する数々の修羅場をくぐり抜け事業に落着きが出て来た50代の半ばに、人脈や視野を広げるためもあって、世界的な組織のライオンズクラブに入会、本部役員等の要職につかれ、地域社会の活性化・発展に広く活躍されています。「奉仕せよ、が基本のこのクラブはお金は多少かかるがチャンスがあれば若い内に入った方が良い」と、社会に媚びずに生きる大人の知恵袋をご披露。

最近ではわが研究会の副理事長を引き受け、会の発展に向けて積極的な提案をされています。

生まれも育ちも父親代から横須賀大津、生粋の横須賀人です。小学校の時に始めた剣道は、逗子開成中学の頃には三浦半島大会では諸先輩を破り優勝するという剣豪でもあり、“いじめっこのワル”から生徒達を守る正義の味方として、いつも一目おかれた存在でした。

“夢”は社会への奉仕をさらに充実させ、社会福祉関連事業への展開も考えたいとか。仕事と趣味がバランス良く出会い、時代を紡ぐ実践型。

最後に後輩へ一言。「権利の主張ばかりでなく、信頼感を持って物事に執着して欲しい」とチョッピリ辛口のお言葉を頂きました。

三女に恵まれた明るく暖かい家庭と、ゴルフ・剣道・ヨット等、多彩な趣味をお持ちの魅力的なお人柄にますます磨きがかかり、今後のご活躍が期待されます。

（取材記事 赤羽孝之）



21世紀かながわ円卓会議に出席して

開催日 : 平成21年3月20日（金）－21日（土）

開催場所 : 湘南国際村センター・国際会議場（神奈川県葉山町）

主催 : 財団法人かながわ国際交流財団

都市と地域の未来を拓く ～まちづくり・ものづくり・ひとづくり～ を副題とするこの会議は、日本の“ダボス会議”を自称する会議です。2000年を第1回としてグローバル化の諸問題を取り上げてきましたが、今回は「新しい都市と地域」をトータルテーマに掲げたシリーズの第1回でした。

円卓のメンバーは、大学の研究者を中心に、自治体首長、マスコミ、実務家そして市民が集いました。始まりは神野直彦東大教授の学説、岡部明子千葉大学准教授の海外事例研究等に終始しましたので、それが日本の現状とどう関わるのか理解するのに最後まで苦労しました。

村山裕三同志社大学教授の「京都の職人文化の伝統とテクノロジーを融合させて現在の知恵産業を興す可能性」の討議のあたりから興味がわいてきました。

自治体からは、野呂昭彦三重県知事が2日間の全日程に参加され、「地域を拓く文化力」の講演と意見交換を積極的に行われたことに三重県が地方自治体として取り組む意気込みを感じました。野呂知事は衆議院議員と松阪市長を経験の上で、三重県政を担うことになったのでトップダウンのビジョンを実現する好例と思いました。

身近かなところでは神奈川県露木順一開成町々長も現役首長としての実例を紹介されていました。江戸時代の知恵をもう一度見直すべきとの提言には我が意を得た思いでした。ちなみに戦前の小学校によく見られた銅像の二宮金次郎（尊徳）は開成町の近くの生まれで江戸時代末期の人です。飽食に慣れ過ぎた現代人は、尊徳の知恵に学ぶことも大事ではないかということでした。2回目はどんなセミナーになるか楽しみです。

（堀家彰生・記）

地域社会の未来を拓くクラスター 設立五周年記念行事を終えて



当研究会が特定非営利活動法人としての認定を受けて以来、5周年を迎えました。その間の交流及び支援活動は年を追って地域の皆さま方のご理解をいただくようになり、知名度の向上を肌で感じております。さて、このたびの5周年記念行事は日頃の交流や支援に感謝するだけでなく、地域経済活性化のための情報発信として、また、行政や研究機関、大学企業間相互の人的交流、その有機的な連携にありました。

ご講演をいただきましたのは、神奈川県商工労働副部長の菅沼敏文氏と湘南信用金庫会長の服部真司氏のお二人です。いずれも、異なった立場からの切り口で、地域経済活性化に結びつくもので、興味深いものでした。お二人のお話の内容をかいつまんでお伝えします。

＊菅沼 敏文氏（神奈川県商工労働副部長）

県民生活の安定化対策として、緊急の雇用確保から就職支援、生活支援、中小個別企業支援対策と幅広いセーフティネットなどのお話があり、国の追加経済対策の二次補正予算まで絡むものでした。

＊服部 真司氏（湘南信用金庫会長）

現下の不況にあえぐ中小企業の実態を長期にわたる景況判断から分析、今回の経済危機の楽観視を戒められた上で、次のような提言をされました。

- ・企業は従業員を大事にして地域に貢献しないと繁栄は期待できない。
- ・今までの仕事に固執しないで、娘や息子が喜んで引き継ぐような事業に転換を図ること。
- ・情報収集に励み、人脈を大切にして義理人情をないがしろにしない社会を志向すること。

そのあと行われた懇親会では、広い会場がちょうど埋まるほどの盛況さで、産官学の皆さまが一堂に集まり、名刺交換や現況下での仕事のあり方、これからの経済動向、趣味のお話から目の前の御馳走に至るまで多様な話題が飛び交う賑やかな、まさに懇親の場となりました。横須賀市長や県会議員の方々からのご挨拶に加えて、横浜市等からの祝電、横浜事業会員、法人会員の皆さま方からも自己紹介を兼ねてユーモアを交えたご挨拶があり、大変盛り上がりました。

交流の場がさらに広がって、皆さまのお役にたつようになれば幸いです。
(野村 徹)

発行：NPO 法人 産業クラスター研究会／〒239-0847 横須賀市光の丘 8-3 YRP ベンチャー棟 209号
Tel & Fax：046-847-6355 E-mail：int_cluster@ybb.ne.jp
横浜事務所／〒231-0015 横浜市中区尾上町 5-80 神奈川中小企業センタービル 7階 12号
Tel：045-633-6488 / Fax：045-633-5183
E-mail：cluster88yokohama@ybb.ne.jp
東京事務所／〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-25-21
渋谷NTビル3階 (株)リズム内
発行人：古川弘康／編集人：卯月 文・赤羽孝之・大西洋治・大久保全勝・木下 武・佐々木興吉
杉山徳義・野村 徹・堀家彰生